

米沢今泉線ワークショップ

魚沼地域振興局地域整備部(平成 17～18 年度実施事業)

県民参加による取り組みから事業化に結びついた事例

◎事業の全体像

一般県道米沢今泉線は国道 252 号と県道小出守門線を接続して、魚沼市の広神地域中心部を通過する道路である。近くにはJR 藪神駅、市役所広神庁舎、郵便局、駐在所もあり、小中学校の通学路にもなっている重要路線であるが、既存の道路幅員は約 6 m と歩道もなく、車のすれ違い時には危険な道路である。

地元からの改良要望はあるものの、人家連坦部ということもあって、本格的な改良には時間も費用もかかる事が予測される。

しかしながら、地元住民の熱意もあって、平成 17 年度に小学生からお年寄りまでが参加して、道路の安全確認パトロール、希望の道路計画について話し合うワークショップを開催。平成 18 年度には、車道を狭め、歩道空間を確保する社会実験を実施した。

<ワークショップの開催状況>

平成 17 年度

⇒現状把握と道路の理想像について意見交換を実施。

第 1 回(H17.12.18) まちあるき・安全点検



第 2 回(H18.2.19) 理想とする道路についての意見交換



ポイント！

条件的には、すぐに事業化することが難しいものの、地元からの改善要望は高い。こうした状況下では、なかなか住民参加をいづらいのが通常である。こうした中、「安全点検」からスタートしたのは、大変良いアイデアである。

平成 18 年度

⇒歩行者空間の確保、安全性向上に向けた社会実験を実施。実験対象となる区間、方法、時期などについては、ワークショップを開催して決定。実験後、成果について事後評価としてアンケート調査を実施。

第 3 回(H18.7.16) 社会実験の内容検討



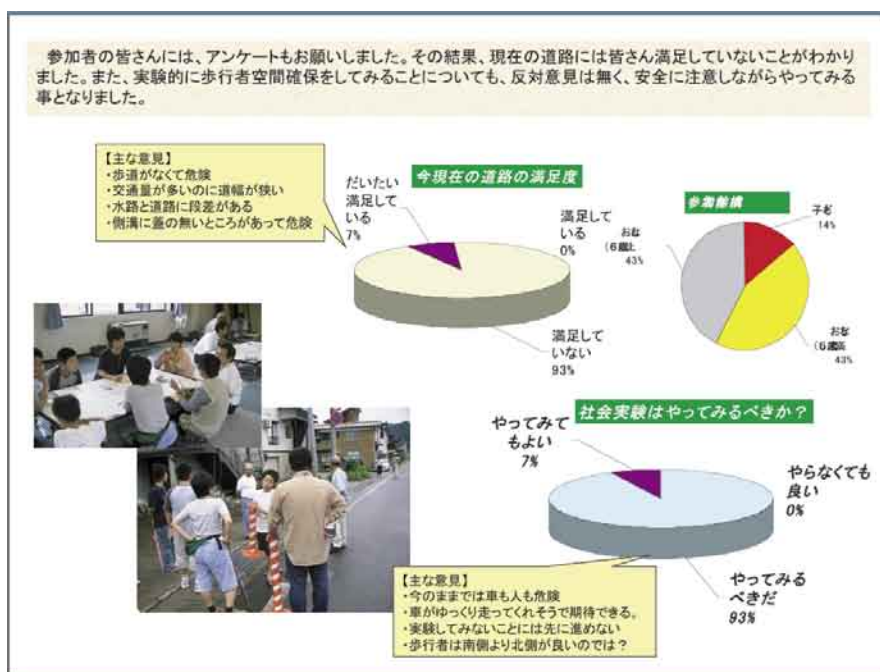
ポイント！

現状の点検→社会実験→住民アンケートという流れによって、事業化への扉が開けた。住民参加を「事業ありき」で行ったのではなく、「事業化に向けた準備」として実施している点は、非常に特徴的である。

(H18.9～) 社会実験開始



(H18.11) 社会実験の事後評価(アンケート調査)



◎事業の成果

ワークショップや社会実験及び事後評価の結果を受け、平成19年に事業化。バリアフリーによる歩道整備として、道路を現道の5.5mから9.5mに拡幅する計画で進んでいる。

米沢今泉線ワークショップのポイント

- 地元の強い要望を受け、整備の方向性を探るワークショップからスタート。
- 社会実験を実施、事後評価等を通じて、地元の合意形成を図った。
- 県民参加を「事業化への準備」として行ったことで、道路整備実施への道筋を作った。

ポイント！

ワークショップや社会実験を地道に積み重ねたことにより、スムーズに事業採択される要因になった。もともと地元要望の強い路線であったため、ワークショップや社会実験への参加者も多かった。こうした民意を形にし、浮かび上がらせることで事業の実施へと繋がっていった。